

北海道横断自動車道 根室線(尾幌^{お ぼ ろ}～糸魚沢^{い と い ざ わ})

第3回 説明資料

平成31年 1月30日

国土交通省 北海道開発局

目 次

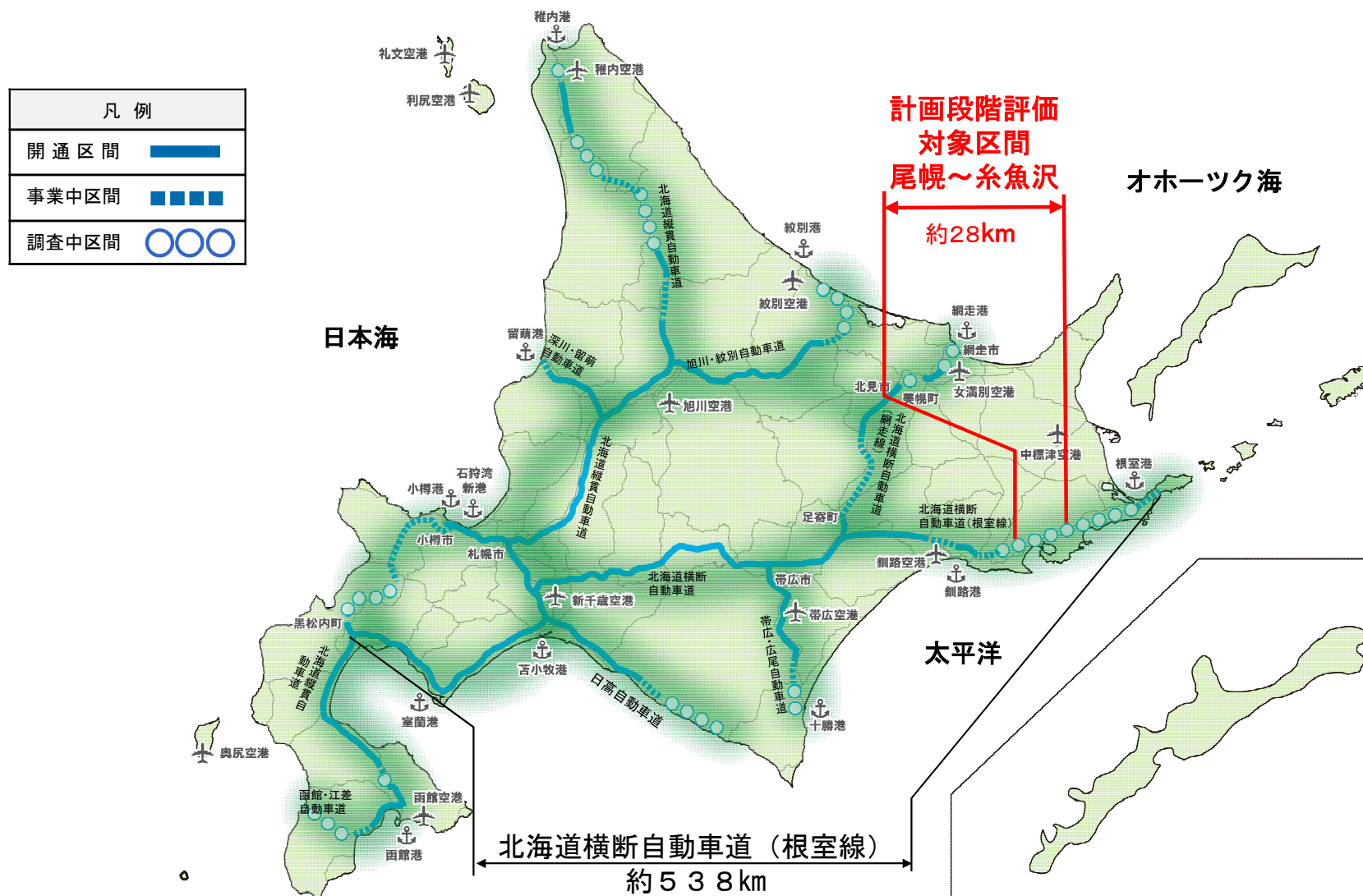
- 1. 計画段階評価の検討の流れ**
- 2. 第2回地域意見聴取結果**
- 3. 対応方針（原案）の検討**
- 4. 自治体への意見照会結果**
- 5. 対応方針（案）のまとめ**

1. 計画段階評価の検討の流れ

1-1) 北海道の高規格幹線道路網

○北海道横断自動車道(根室線)は、黒松内町を起点として札幌市、帯広市、釧路市等を経由し、根室市へ至る延長約538kmの高規格幹線道路で、尾幌～糸魚沢間はその一部区間。

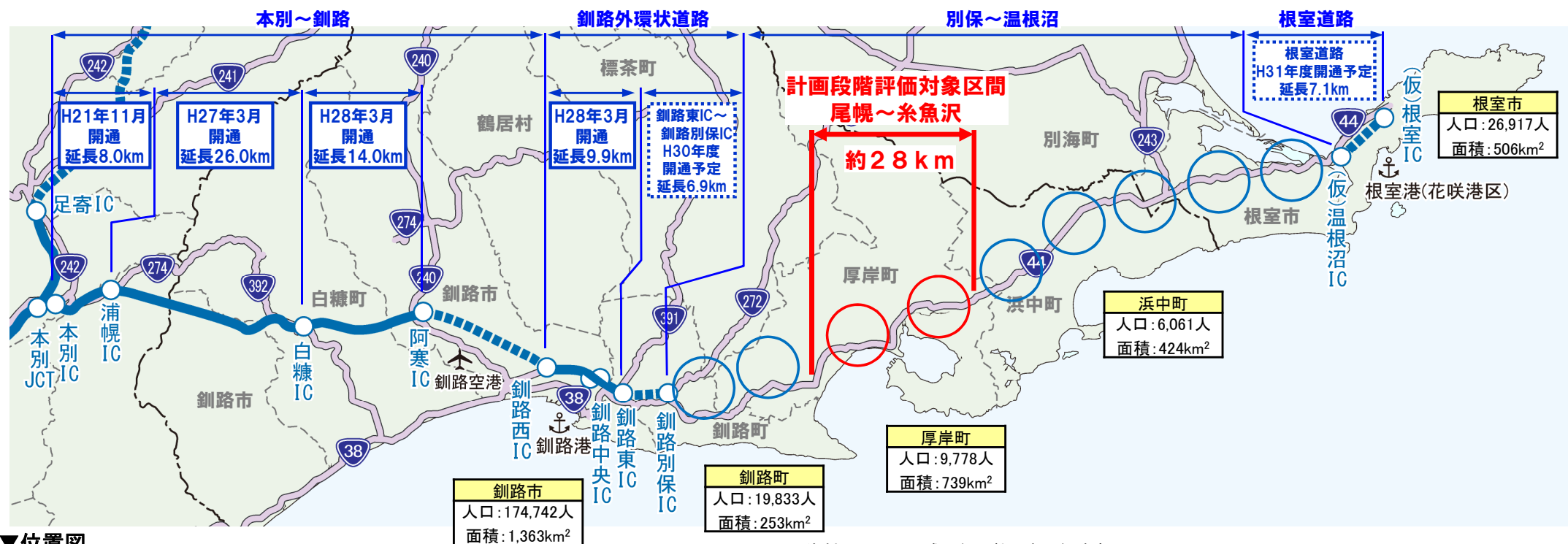
○当該区間は、釧路市～根室市間のうち、厚岸町に位置する延長約28kmの区間。



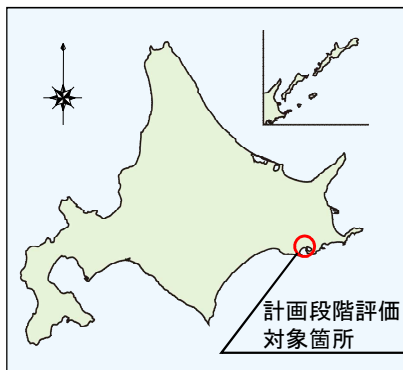
1-2) 北海道横断自動車道(根室線)の進捗

○北海道横断自動車道(根室線)は、平成28年3月に白糠IC～阿寒IC間が開通済み。

○釧路外環状道路は、平成28年3月に釧路西IC～釧路東IC間が開通し、釧路東IC～釧路別保IC間は平成30年度に開通予定。



▼位置図



資料 人口：平成27年国勢調査（総務省）
面積：平成28年全国都道府県市区町村別面積調（国土地理院）

凡 例	
開 通 区 間	
事業中期間	
調査中期間	

1-3) 計画段階評価の手続きの進め方(案)

- 平成30年10月26日から約3週間、地域意見聴取を実施。
- 本委員会は地域意見聴取の結果、対応方針(案)の検討について議論。

【平成29年8月25日】

北海道 地方小委員会

- 【審議内容】
- 計画段階評価
手続きの進め方
- 地域・道路の
現状と課題
- 地域意見
聴取方法(案)

【平成29年12月6日
～12月27日】

地域意見聴取 (第1回)

- 地域・道路の課題
- ◆意見聴取方法
〈ヒアリング〉
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- 〈アンケート〉
対象者
・地域住民
・道路利用者

【平成30年6月21日】

北海道 地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の結果
- 地域意見を踏まえた
路線の政策目標(案)
- 地域意見を踏まえた
路線の整備方針(案)
- 比較ルート(案)
(複数案)
- 地域意見聴取方法(案)

【平成30年10月26日
～11月15日】

地域意見聴取 (第2回)

- 路線の整備方針
- ◆意見聴取方法
〈ヒアリング〉
対象者
・沿線自治体等
・関係団体
- 〈アンケート〉
対象者
・地域住民
・道路利用者
・観光客

今 回

北海道 地方小委員会

- 【審議内容】
- 地域意見聴取の
結果
- 対応方針(案)
の検討

対応方針の決定
(概略ルート・構造等)

北海道地方小委員会

※各段階で随時自治体と調整

1-4) 前回委員会での主な意見と対応

■第2回計画段階評価（第16回北海道地方小委員会）の概要

実施日	平成30年6月21日（木）
議事内容	○地域意見聴取結果 ○地域意見を踏まえた政策目標（案） ○路線の整備方針（案） ○第2回意見聴取方法（案）

■主な意見と対応状況

主な意見	対応	資料
・自由記述(P14、P16)にまちづくりという区分があるが道路を作るには地域の住民が携わる産業・生活が持続されていくことが大前提であるが、まちづくりという分類では産業と生活それぞれの意見がわかりにくいのでは。	産業と生活について詳細に分析を行うため、まちづくりを「生産空間維持」と「地域振興」に再分類を行い意見を整理。	第2回説明資料修正 P14、P16:「生産空間維持」「地域振興」に再分類
・第8期北海道総合開発計画にある「世界水準の観光地」としての位置づけや道東地域が広域観光ルートにも選ばれている状況を踏まえ、観光でも非常に重要な路線。政策目標への追加や、地域意見聴取で観光団体へのヒアリングの実施なども検討すべき。	①第1回意見聴取の自由記述から観光に関する意見を抽出、観光に関する課題として「移動時間の短縮」と「安全性の確保」が重複して確認されたため、政策目標として「観光」を新たに設定。また、政策目標の設定に伴いアンケート項目に追加。 ②世界水準の観光地としての道東圏の観光地が広域に分散していることを示すために地域の課題を再整理。 ③第2回意見聴取で観光に関する意見を頂くためにヒアリング先に釧路観光連盟、北海道観光振興機構、北海道バス協会を選定しヒアリングを実施。また観光客に対して面談アンケートを実施。	第2回説明資料修正 P24、P26、P27、P32 :政策目標・対策案の追加 P34:ヒアリング、アンケート先追加 P40:アンケート項目追加 第1回資料修正 P25:道東圏の観光地を追加
・時間短縮効果について、吹雪等の気象条件による影響を考慮すべきではないか。	季節により救急搬送時間のばらつきが確認されるため、道路の求められる機能として「年間を通じて医療拠点である釧路市への速達性の高い道路」とすることとし、夏季と冬季それぞれの時間短縮効果について評価項目とする。また地吹雪等が多発する区間についてもコントロールポイントとして追加。	第2回説明資料修正 P26、P27:文言追記 P32:比較表に反映 P28～P31:地吹雪等多発区間を追加
・別線整備案と現道活用案は、整備効果や費用等の観点から別線整備案が大きく優位なので、何か現道活用案が優位になる点も示すべきではないか。	地域沿道からの利用しやすさについて検討し「沿道地域からの利便性」について配慮すべき事項に追加。	第2回説明資料修正 P27:配慮すべき事項に追加 P29～P31:ポイントに追加 P32:比較表に追加 P40:アンケート項目に追加
・意見聴取で女性の意見が25%と少なく、女性からの意見を増やす工夫が必要ではないか。また自由記述について様々な意見を聴取できるのでたくさん記載してもらえるような工夫が必要ではないか。	①幅広い女性の意見を頂くためにヒアリング先に農業・漁業の協同組合の女性部を選定しヒアリング予定。 ②自由記述に意見を書き込めるように記述欄を拡大。	第2回説明資料修正 P34:ヒアリング先を追加 P40:自由記述欄の拡大
・医療の観点では、釧路根室管内の救急搬送先は釧路市に集中しており、これらの地域医療の切実さを訴えて、路線の必要性の理解をより深めるべきではないか。	沿線（浜中町・厚岸町）の地域医療の実態について高次診療科目の少なさやドクターヘリの運航状況を把握することで地域医療の切実さを訴え路線の必要性を整理。	第1回説明資料修正 P21:文章追記 ドクターヘリ運航状況追加
・地域意見聴取では多くの自由意見をいただいております、一部を掲載するだけではなく統計的なデータのとりまとめも検討すべきではないか。	自由記述の意見について統計的に分析を行うために詳細なキーワードを設定し、6つの項目（安全性・走行性、防災、アクセス・交通機能、生産空間維持、地域振興、その他）で分類。	第3回説明資料 P-17～18:自由意見を分類整理

2. 第2回地域意見聴取結果

2-1) 第2回地域意見聴取の概要

○第2回意見聴取は、住民・道路利用者へのアンケート調査、および沿線自治体・関係団体へのヒアリング調査を実施。

■地域意見聴取期間
平成30年10月26日(金)～11月15日(木)

■地域意見聴取の対象



アンケート調査				
住民・道路利用者	配布	全戸配布、郵送回収		厚岸町約4,000世帯 浜中町約2,300世帯 根室市約11,300世帯 合計約17,600世帯
	留置き	市役所、町役場および道の駅に調査票を常設、郵送または投函箱による回収		合計 5箇所
	Web	北海道開発局釧路開発建設部のホームページに開設		広く意見を聴取
	観光客	観光施設(道の駅厚岸グルメパーク、道の駅スワン44ねむろ)、釧路空港での面談アンケート		合計 3箇所

ヒアリング調査			
団体自治体代表者	沿線自治体等	釧路総合振興局、根室振興局、釧路市、釧路町、厚岸町、浜中町、根室市	合計 7団体
	関係団体	商工会議所(2箇所:釧路、根室)、商工会(2箇所:厚岸、浜中)、根室市町会連合会婦人部連絡会 農業協同組合(2箇所:JA釧路太田、JA浜中町) 漁業協同組合(3箇所:厚岸漁業協同組合、根室漁業協同組合、浜中漁業協同組合) 農・漁業共同組合女性部(4箇所)、農水産加工会社(6箇所) 釧路地区トラック協会、運送会社(3箇所) 消防本部・消防組合(3箇所:釧路東部消防組合消防本部・厚岸消防署、浜中消防署、根室市消防本部) 病院(3箇所:市立釧路総合病院、町立厚岸病院、市立根室病院) 釧路観光連盟、北海道バス協会、北海道観光振興機構	合計 33団体

2-2) 地域意見聴取の実施状況(アンケート調査)

○地域住民・道路利用者に対して、対応案の比較にあたって政策目標の重視度と整備にあたり配慮すべき事項について、アンケート調査を実施。

意見聴取内容

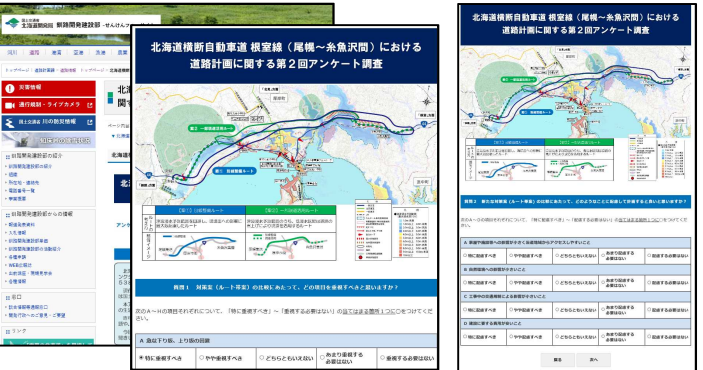
回答者属性（住所、性別、年齢、職業、自動車運転頻度、尾幌～糸魚沢間の利用頻度・利用目的）

- 問1 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきかについて
- 問2 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきかについて
- 問3 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についての意見等について

配布形式調査票



Web(釧路開発建設部HP)



自治体HP掲載状況



釧路市HP



厚岸町HP

留置き状況



道の駅スワン44ねむろ

自治体の広報状況



厚岸町IP告知端末

観光客調査実施状況



釧路空港 調査員



調査員 調査員

道の駅厚岸グルメパーク

2-3) 地域意見聴取の実施状況(ヒアリング調査)

○沿線自治体・関係団体に対して、同様にヒアリング調査を実施。

■意見聴取内容

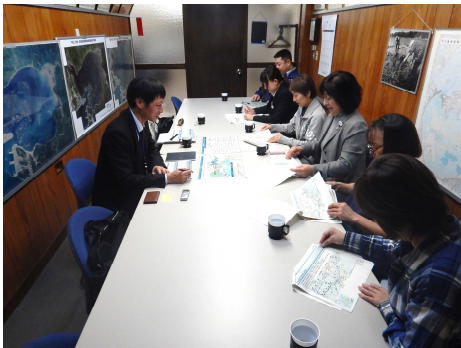
- 問 1 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきかについて
- 問 2 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すべきかについて
- 問 3 その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についての意見等について

■実施状況

調査対象			実施数
各 団 体	沿線自治体等		7 箇所
	産業団体	商工会等	4 箇所
		農水産業関連	1 1 箇所
		物流（輸送関連）	4 箇所
		観光関連	3 箇所
	医療・ 消防	消防	3 箇所
		病院	3 箇所
	婦人部連絡会 農・漁業協同組合女性部等		5 箇所
4 0 箇所			



(厚岸町)



(厚岸漁業協同組合女性部)



(釧路東部消防組合消防本部・厚岸消防署)



(根室市町会連合会婦人部連絡会)

2-4) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回収状況・居住地)

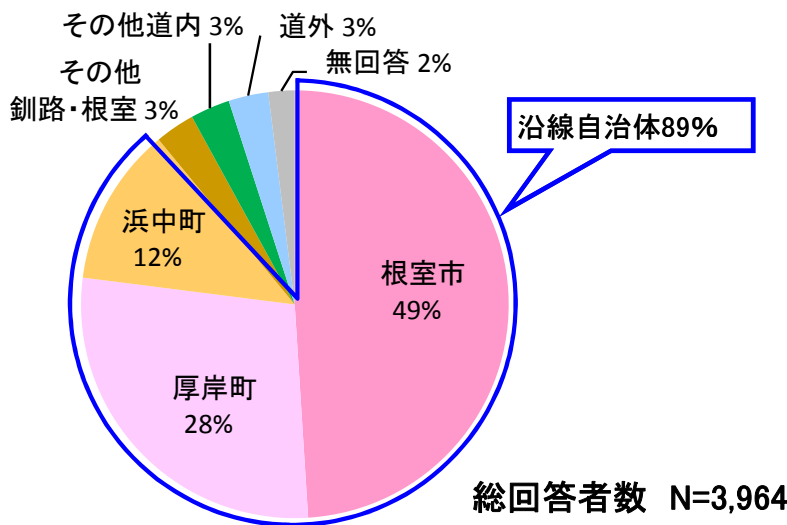
○全回収数は3,964票で、配布形式3,136人、留置き413人、Web80人、観光面談で335人が回答。
○回答者の居住地は、沿線自治体89%、その他の釧路根室地域の市町村3%、釧路根室地域以外の道内・道外が6%。

▼調査票回収状況

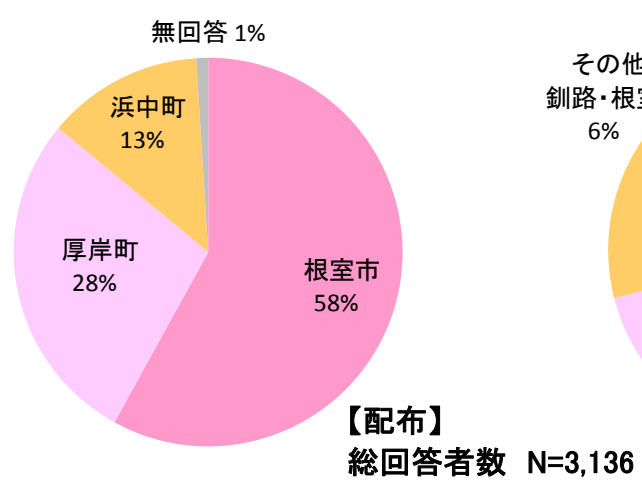
調査形式	配布数	回収数	回収率
配布(沿線自治体)	17,273票	3,136票	18%
留置き(道の駅)	—	413票	—
Web	—	80票	—
観光面談	—	335票	—
合計	—	3,964票	—

注: 沿線自治体への合計17,646票の配布数のうち、373票が住所不定で返送されたため、配布数は17,273票。

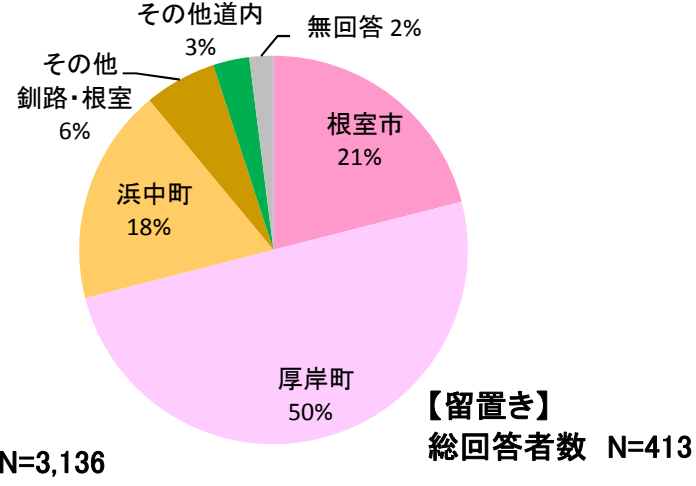
▼回答者居住地



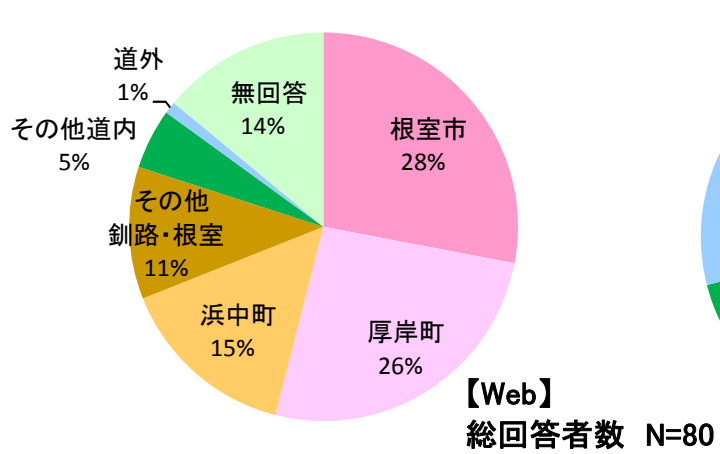
▼居住地(配布)



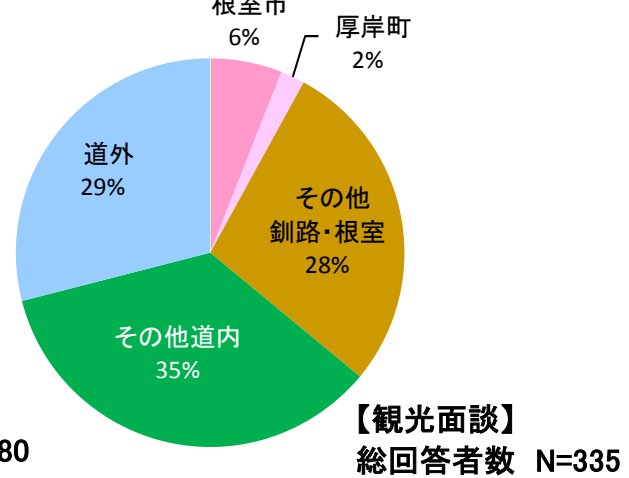
▼居住地(留置き)



▼居住地(Web)

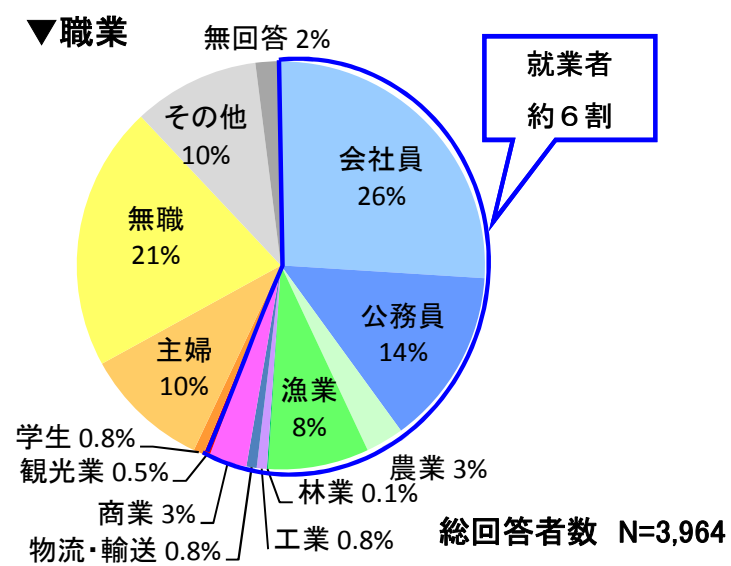
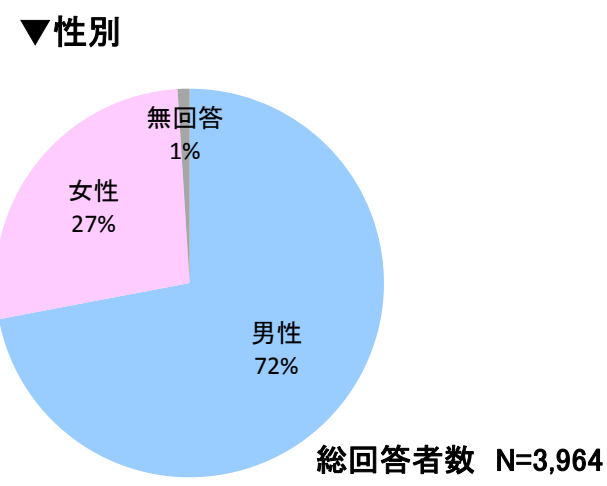
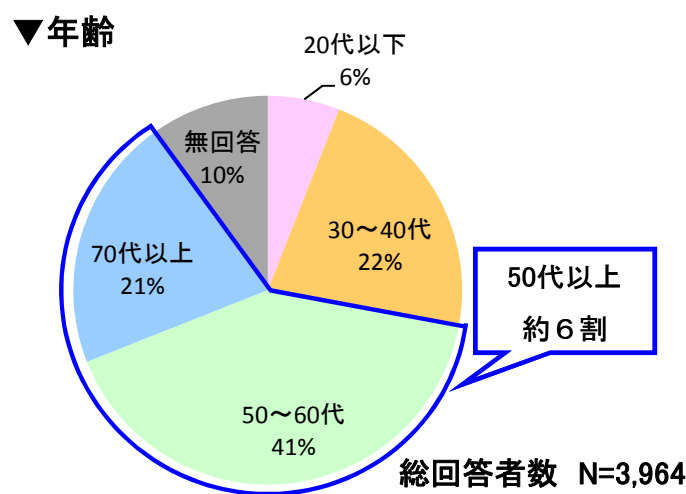


▼居住地(観光面談)

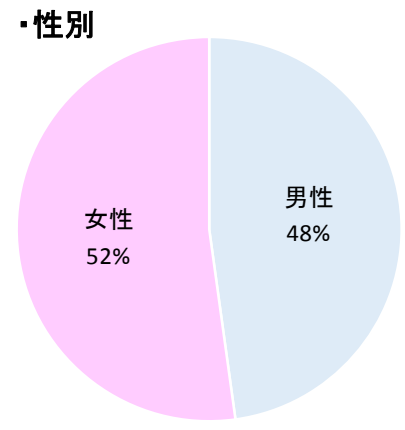
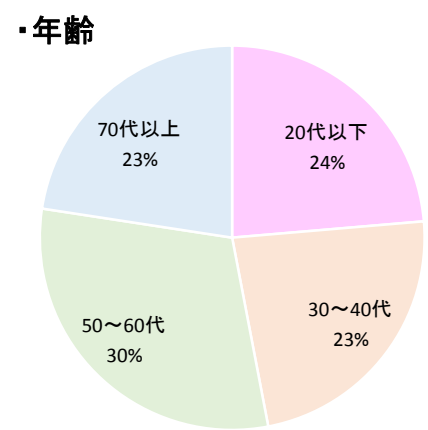


2-5) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(回答者属性)

○年齢構成は50代以上が6割以上を占め、また性別は男性の回答割合が約7割、女性の回答割合が約3割。
○回答者の約6割が就業者で、非就業者・その他・無回答が約4割。
○職業では会社員が全回答者の約3割と最も多く、次いで無職、公務員、主婦の割合が高い。



【参考】沿線自治体(厚岸町、浜中町、根室市)の統計データ



・就業率

配布数	就業者数	就業率
厚岸町	5,500	64%
浜中町	3,700	71%
根室市	13,900	58%
計	23,200	61%

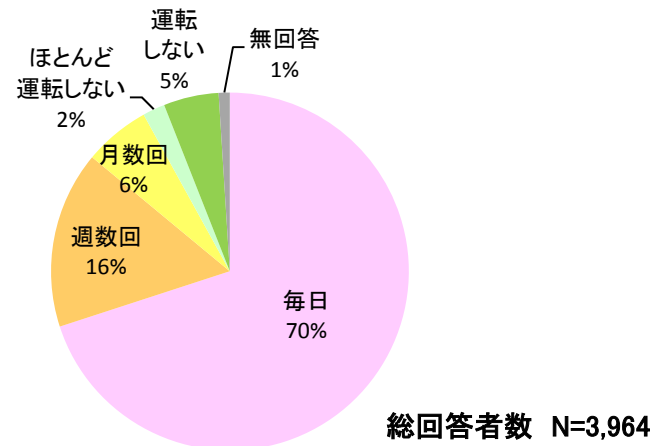
※就業率=15歳以上の人口に占める就業者の割合

2-6) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度等)

- 回答者の7割が自動車を毎日運転すると回答。
- 尾幌～糸魚沢間の利用頻度は、毎日～月数回の利用者が7割を占めている。
- 尾幌～糸魚沢間の利用目的は、家事・買物、通院、観光・レジャー、仕事(営業・運送等)の順で多くなっている。

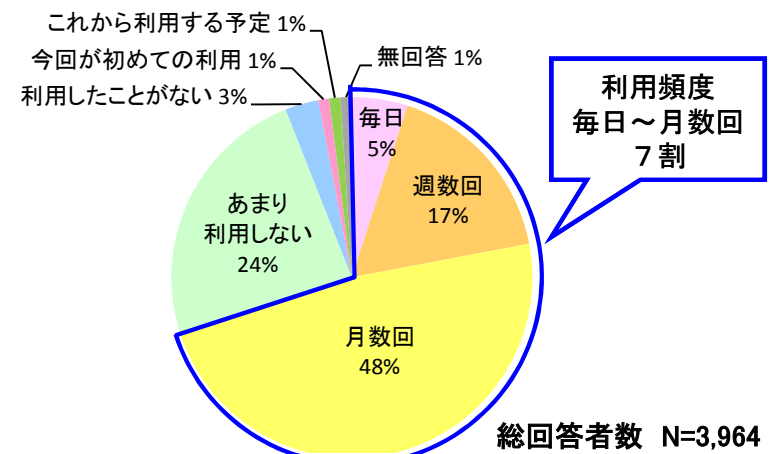
▼自動車を運転する頻度

質問. 自動車を運転する頻度を教えてください(単数回答)



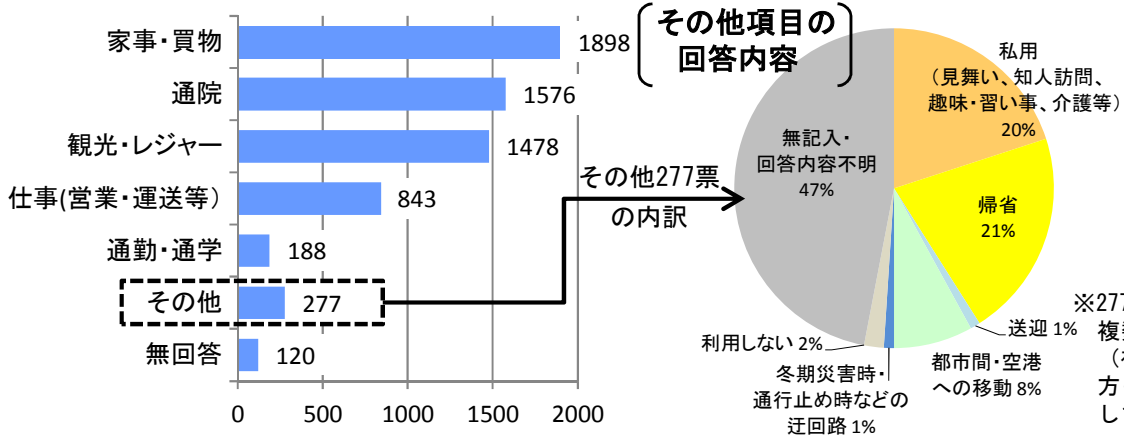
▼国道44号尾幌～糸魚沢間の利用頻度

質問. 国道44号尾幌～糸魚沢間の利用頻度を教えてください(単数回答)



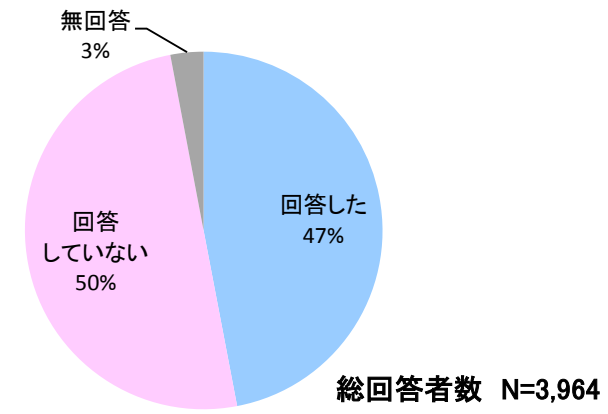
▼尾幌～糸魚沢間の利用目的

質問. 尾幌～糸魚沢間の主な利用目的を教えてください(複数回答)



▼前回のアンケートの回答状況

質問. 前回の第1回アンケートに回答しましたか(単数回答)

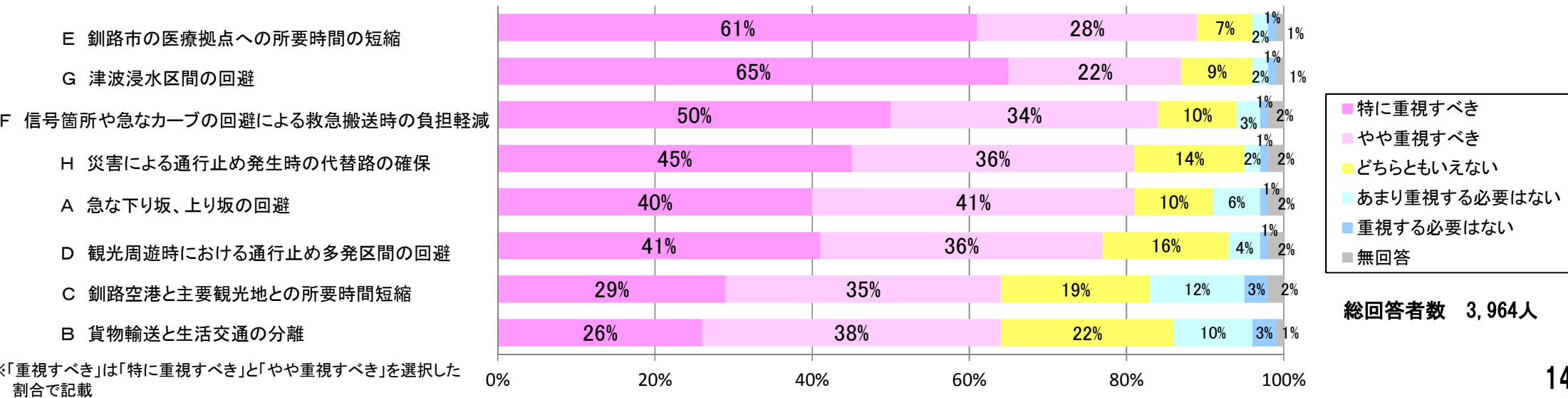


2-7) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(政策目標の重視度)

○道路機能の重視度については、すべての項目に対し約6～9割が重視すべきと回答。
○特に、「釧路市の医療拠点への所要時間の短縮」を重視すべきとの意見が約9割と最も多く、
次いで「津波浸水区間の回避」や「信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減」を重視すべきとの意見も約8～9割と多い。

質問1 対策案（ルート帯案）の検討にあたって、どの項目を重視すべきと思いますか？

次のA～Hの項目それぞれについて、「特に重視すべき」～「重視する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に重視すべき	やや重視すべき	どちらともいえない	あまり重視する必要はない	重視する必要はない
A 急な下り坂、上り坂の回避	1	2	3	4	5
B 貨物輸送と生活交通の分離	1	2	3	4	5
C 釧路空港と主要観光地との所要時間短縮	1	2	3	4	5
D 観光周遊時における通行止め多発区間の回避	1	2	3	4	5
E 釧路市の医療拠点への所要時間の短縮	1	2	3	4	5
F 信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減	1	2	3	4	5
G 津波浸水区間の回避	1	2	3	4	5
H 災害による通行止め発生時の代替路の確保	1	2	3	4	5

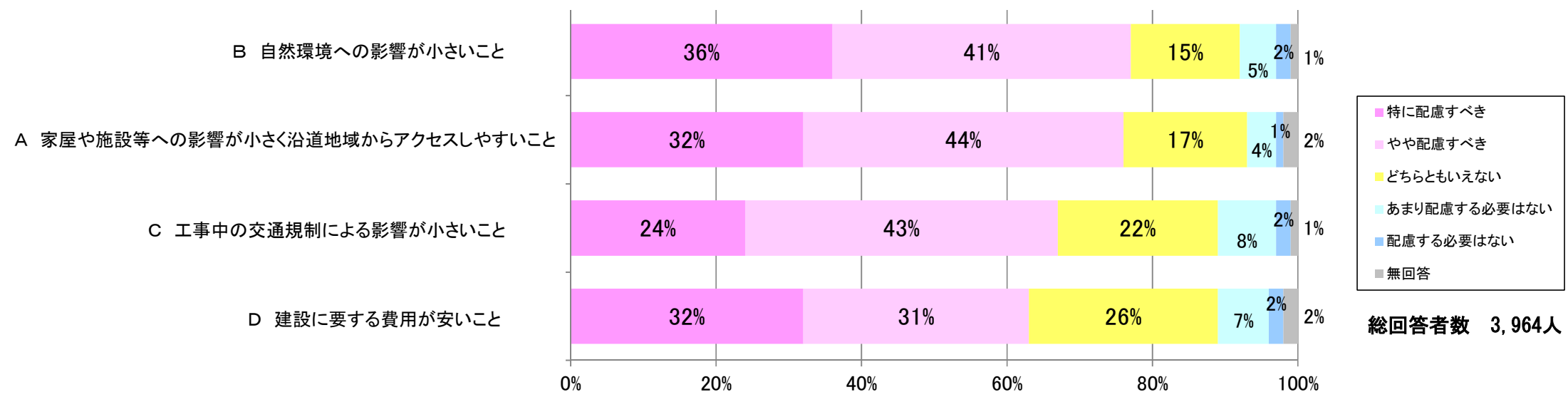


2-8) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(配慮すべき事項)

○配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対し約6～8割が配慮すべきと回答。
○特に、「自然環境への影響が小さいこと」や「家屋や施設等への影響が小さく沿道地域からアクセスしやすいこと」に配慮すべきと感じている意見が約8割と多い。

質問2 新たな対策案（ルート帯案）の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画すると良いと思いますか？

次のA～Dの項目それぞれについて、「特に配慮すべき」～「配慮する必要はない」の当てはまる箇所1つに○をつけてください。	特に配慮すべき	やや配慮すべき	どちらともいえない	あまり配慮する必要はない	配慮する必要はない
A 家屋や施設等への影響が小さく沿道地域からアクセスしやすいこと	1	2	3	4	5
B 自然環境への影響が小さいこと	1	2	3	4	5
C 工事中の交通規制による影響が小さいこと	1	2	3	4	5
D 建設に要する費用が安いこと	1	2	3	4	5

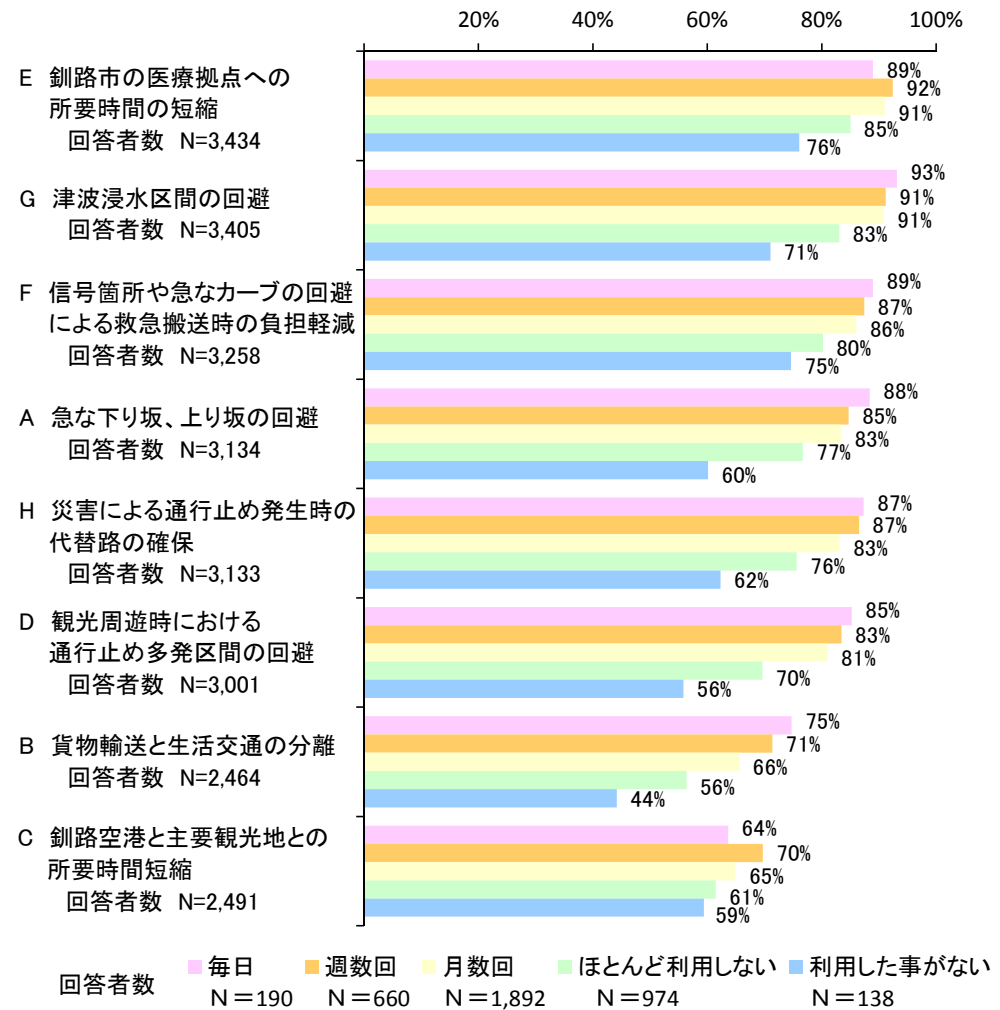


※「配慮すべき」は、「特に配慮すべき」と「やや配慮すべき」を選択した割合で記載

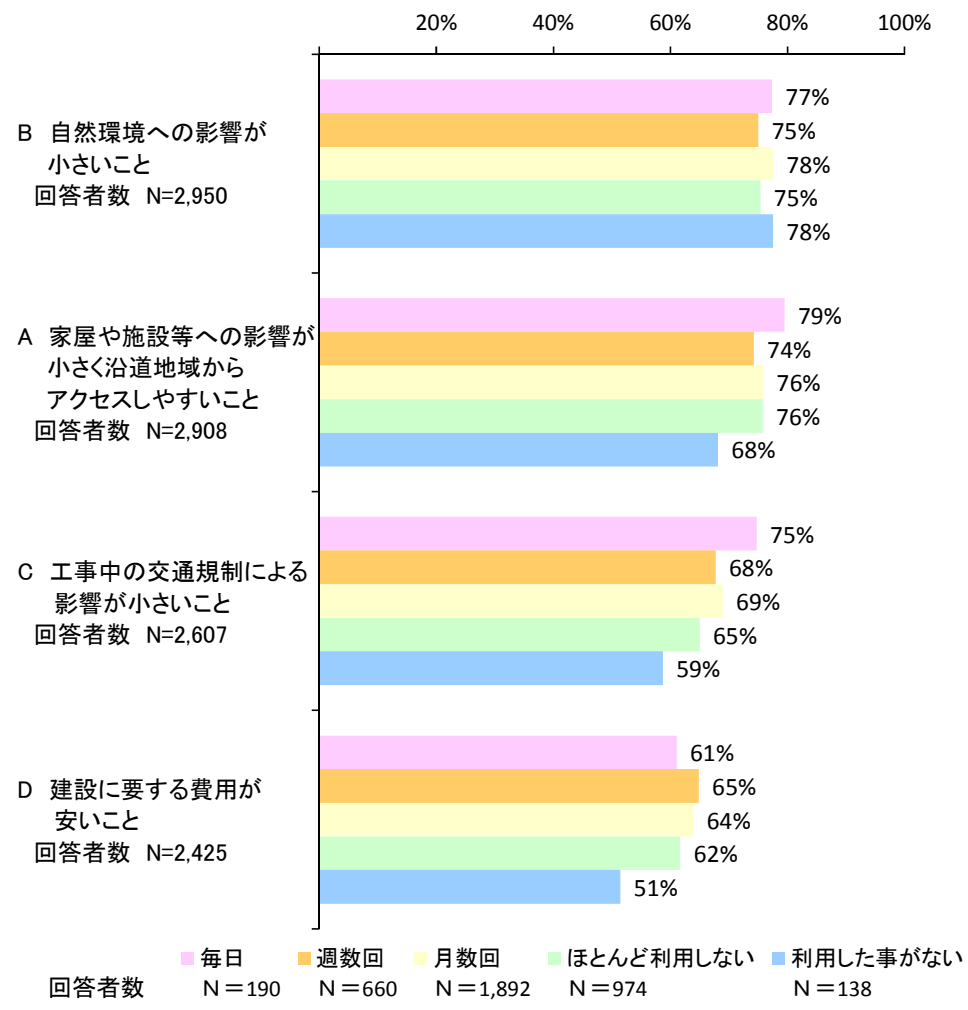
2-9) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(利用頻度別意見割合)

○利用頻度別では、高頻度利用者(毎日・週数回・月数回)ほど、道路機能すべての項目について重視する割合が高い傾向。
○配慮すべき事項では、利用頻度にかかわらず「自然環境への影響が小さいこと」について配慮すべきとの意見が多く、高頻度利用者ほど「工事中の交通規制に対する影響」等について配慮すべきという意見が多い。

▼対策案(ルート帯案)比較にあたって
重視すべき項目×尾幌～糸魚沢間利用頻度別の意見割合



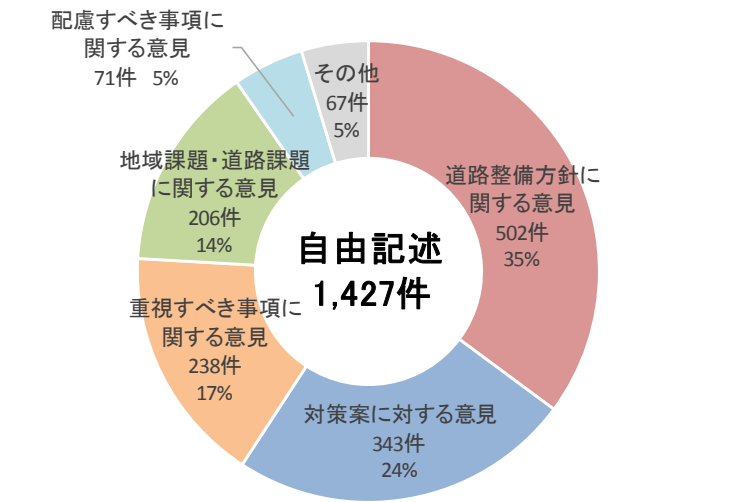
▼対策案(ルート帯案)比較にあたって
配慮すべき事項×尾幌～糸魚沢間利用頻度別の意見割合



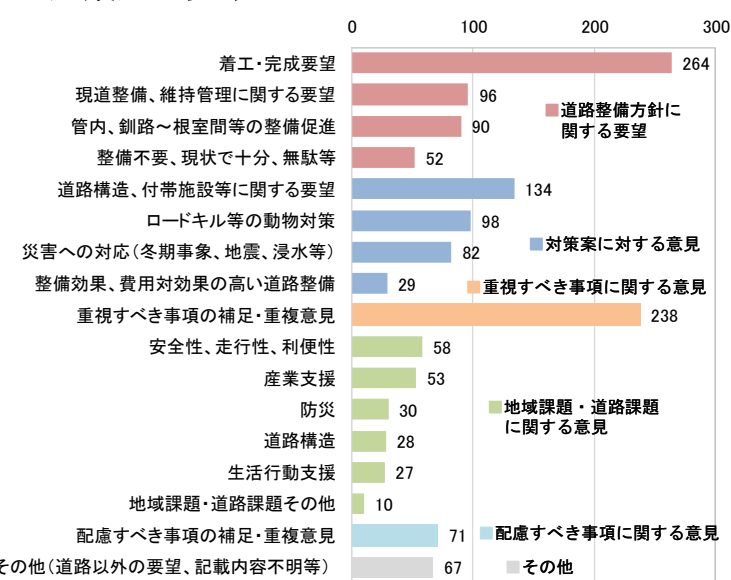
2-10) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(自由意見)

○自由意見の記述では「道路整備方針に関する意見」が最も多く、次いで「対策案に対する意見」が多く寄せられた。「道路整備方針に関する意見」では着工・完成要望、「対策案に対する意見」では道路構造、付帯施設等に関する意見が多く寄せられた。

▼自由意見の内容内訳



▼分類別意見数



▼主な意見(道路整備方針に関する意見ほか)

分類		主な意見
道路整備方針に関する意見	着工・完成要望	・私共が暮らす根室は様々な分野において国道44号線を利用します。特に医療においては命の道路です。時間短縮は生命にかかわる問題です。ぜひ早急な実施をお願いします。(根室市/60代男性) ・釧路の医療機関への時間短縮と津波浸水区間の回避のために早期着工を望みます。(根室市/年齢不明男性)
	管内、釧路～根室間等の整備促進	・釧路～根室間の高速化は過疎地域に住む人にとってとても重要な課題と思います(医療や災害時などの対応)。一日も早い整備を期待しています。(根室市/40代男性)
	現道整備、維持管理に関する要望	・自動車道整備後の既存国道の維持・管理についても従前以上に必要だと思う。(厚岸町/70代男性)
	整備不要、現状で十分、無駄等	・高速道路については特に必要性を感じていない(厚岸町/80代男性)
対策案に対する意見	道路構造、付帯施設等に関する要望	・津波災害時の避難・支援ルート機能を道路とするため尾幌～糸魚沢間に数カ所のインターチェンジを設置する必要がある。(厚岸町/60代男性)
	ロードキル等の動物対策	・国道上で野生動物(鹿、狐、あらいぐま等)と遭遇し接触事故も5回経験しており、動物侵入対策を万全に願いたい。(根室市/年齢不明男性)
	災害への対応(冬期事象、地震、浸水等)	・いつ来るかわからない津波が発生した時の避難や物資の輸送ルートをぜひとも確保して欲しいです。また、地震がおきても大丈夫な強い道路を望みます。(浜中町/50代女性)
	整備効果、費用対効果の高い道路整備	・釧路根室間の時間短縮効果の大きい案を支持します。(根室市/30代男性)

2-11) 地域意見聴取の結果 アンケート調査(その他配慮すべき事項や意見)

○「地域課題・道路課題に関する意見」では、「安全性、走行性、利便性」や「産業支援」についての意見が多く、「重視すべき事項に関する意見」では津波浸水や代替路などの災害面に対する意見、「配慮すべき事項に関する意見」では自然環境への影響に関する意見が多く寄せられた。

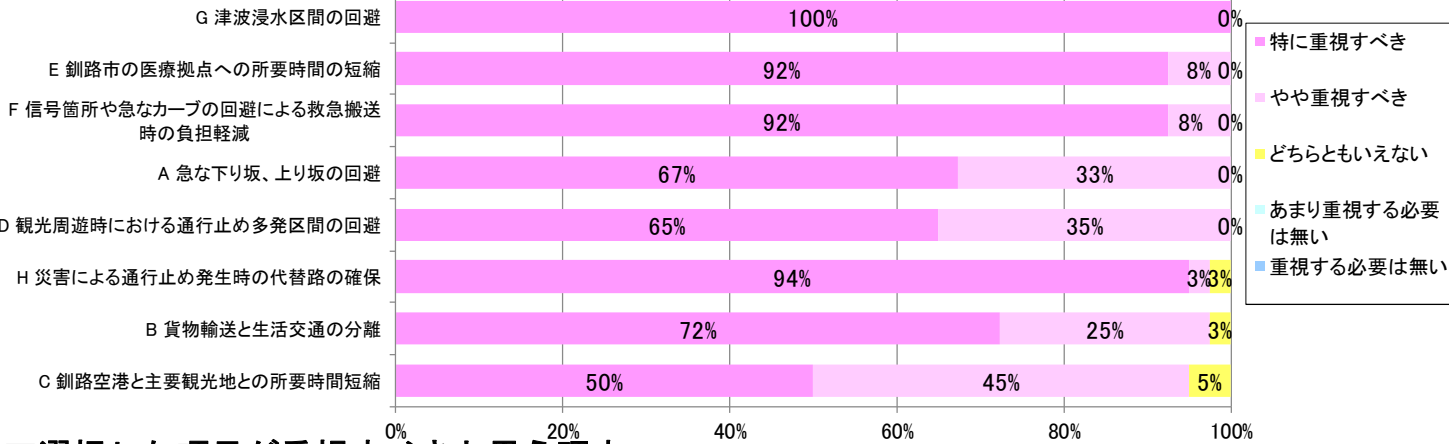
▼主な意見(地域課題・道路課題に関する意見ほか)

分類		主な意見
重視すべき事項に関する意見	重視すべき事項の補足・重複意見	・この地域は地震・津波の災害が予想されており、それらに耐えうる強い道路が望まれる。災害が予想されている危険な箇所には <u>代替路の確保</u> が必要です。(根室市/70代男性) ・東日本大震災や胆振東部地震もあり、防災対策は重要だと思います。この厚岸でも <u>津波に対応できる道路</u> をぜひ整備してほしいです。(札幌市/40代男性)
地域課題・道路課題に関する意見	安全性、走行性、利便性	・厚岸へ来やすい道路整備と厚岸の水産物が空港やフェリーまで早く届けられる道路にしてほしいです。(厚岸町/40代男性)
	産業支援	・できるだけ国道を重複することがない様にしてほしい。高齢化が進む地方では、病人など人命に関わるが多く、また <u>水産物の輸送</u> など早急な整備が <u>地域のために必要</u> ！(浜中町/50代男性)
	防災	・釧根地方は、冬の地吹雪が大変なので十分な対策をとってもらいたい。(根室市/80代男性)
	道路構造	・夏と冬とでは道路状況が違うので特に冬道、急な下り上り坂、カーブ、日陰、地吹雪等々できれば避けてほしいです。(厚岸町/80代男性)
	生活行動支援	・根室-釧路間はとても遠いです。少しでも距離が短くなれば病院通院の負担が減ります。ただ、トラックなどが多く、走りづらいので <u>大型車との区別</u> があると助かります。(根室市/40代女性)
	地域課題・道路課題その他	・ドクターヘリは天候不良だと飛べないので、釧路への所要時間の短縮ができれば、助かる命が増えるのではないかと思います。お金がかかっても、 <u>時間短縮を重視し</u> 、安全に走れる道路にしていきたいと思います。(根室市/40代女性)
配慮すべき事項に関する意見	配慮すべき事項の補足・重複意見	・ <u>希少な動物・植物もたくさんあるのではと思うのでそこを大切にしつつ</u> 、生活の便利さも求めて欲しい(厚岸町/60代女性)
その他	その他(道路以外の要望、記載内容不明等)	・道路工事毎の工事関係者による工事内容進捗等のブログを作って地図上から検索できるようにしてほしい。公共事業の見える化！(根室市/40代男性)

2-11) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(政策目標の重視度)

○道路機能の重視度については、すべての項目に対し約9割以上が重視すべきと回答しており、特に「津波浸水区間の回避」や「釧路市の医療拠点への所要時間の短縮」はすべての団体が重視すべきと回答。
○「災害による通行止め発生時の代替路の確保」については約9割以上が特に重視すべきと回答。

▼対策案の比較にあたって、重視すべき項目



質問1. 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、設定した道路機能をどの程度、重視すべきと思いますか？

- A 急な下り坂、上り坂の回避
- B 貨物輸送と生活交通の分離
- C 釧路空港と主要観光地との所要時間短縮
- D 観光周遊時における通行止め多発区間の回避
- E 釧路市の医療拠点への所要時間の短縮
- F 信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減
- G 津波浸水区間の回避
- H 災害による通行止め発生時の代替路の確保

総回答数 40団体

▼選択した項目が重視すべきと思う理由

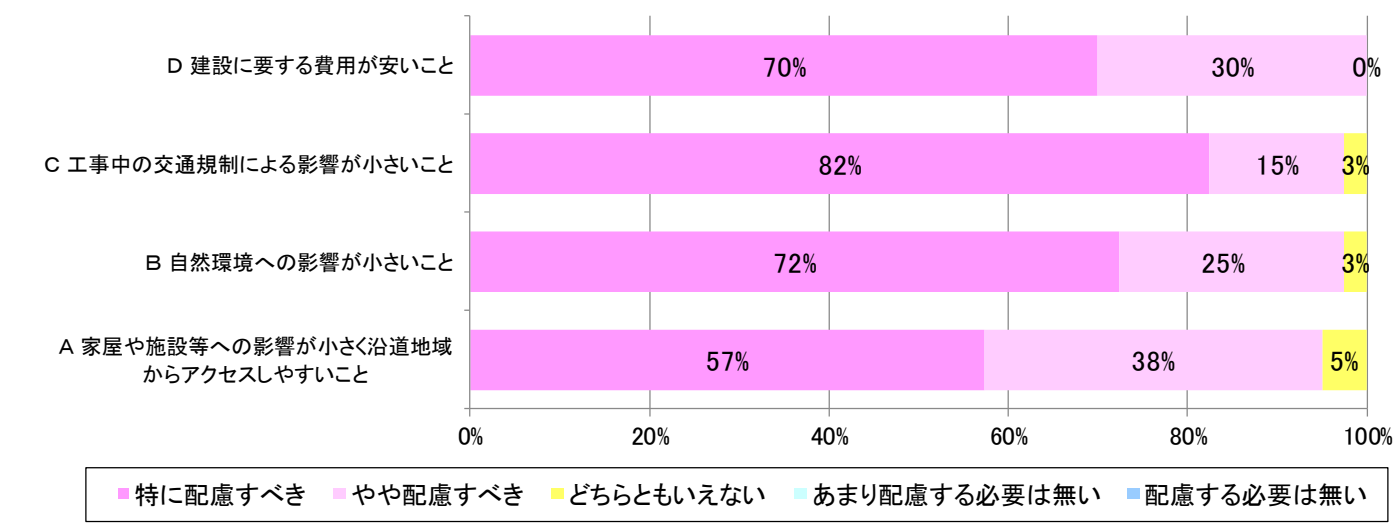
項目	主な意見
釧路市の医療拠点への所要時間の短縮	・年間250～260件ほどある救急搬送のうち、8割以上が浜中より釧路方面へ搬送している。(一部、厚岸病院)一度、釧路を往復すると約3時間かかり、その間救急車の数が減ることになるため、少しでも時間短縮されて戻りが早いと、次の対応も早くなるので効果大きい。【消防組合】
津波浸水区間の回避	・災害支援を受ける場合行方場合双方で、緊急消防援助隊や自衛隊の通行経路が浸水で確保できないのは大きな問題であり回避されることは重要。【消防組合】
信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減	・くも膜下出血等の脳内出血での救急搬送の場合には、特に急ブレーキやカーブでの振動が患者の症状悪化につながる恐れがあるので、安全に搬送を行うためにも重要。【消防組合】
貨物輸送と生活交通の分離	・運送事業者としては分離されることで交通量も少なく事故などのリスクも減るので望ましい。【運送会社】
急な下り坂、上り坂の回避	・特に冬季の凍結路面は、非常に怖いと感じている。また、水産品の輸送を考慮しても、上り坂・下り坂は極力無いのが望ましい。【漁業協同組合】
観光周遊時における通行止め多発区間の回避	・せっかく来て頂いたのに通行止めが足かせになる可能性があるのではあてはならない。【自治体】
災害による通行止め発生時の代替路の確保	・災害時、44号が通行できない状況になった場合、代替路線が無いと物資の輸送も緊急搬送も大きく迂回が必要になるため、代替路の確保は特に必要。【JA】
釧路空港と主要観光地との所要時間短縮	・観光地全部を見て回りたい人にとっては時間短縮の効果は大きいほどよい。さらに釧路空港と高規格道路ネットワークが整備されれば、釧路空港と周辺地域の効率のよい周遊観光の提供や連携した対応ができると考える。また、整備された道路から観光地までが近ければさらなる時間短縮となり、「あつけし牡蠣まつり」の会場や道の駅「厚岸グルメパーク」、厚岸蒸留所にアクセスしやすい道道厚岸標茶線で乗り降りできればよいのではないか。【自治体等】

2-12) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(配慮すべき事項)

○配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対し約9割以上が配慮すべきと回答しており、特に「建設に要する費用が安いこと」はすべての団体が配慮すべきと回答。

○「工事中の交通規制による影響が小さいこと」については約8割が特に重視すべきと回答。

▼対策案の比較にあたって、配慮すべき事項



質問2. 対策案(ルート帯案)の比較にあたって、どのようなことに配慮して計画するとよいと思いますか？

- A 家屋や施設等への影響が小さく沿道地域からアクセスしやすいこと
- B 自然環境への影響が小さいこと
- C 工事中の交通規制による影響が小さいこと
- D 建設に要する費用が安いこと

▼選択した事項に配慮すべきと思う理由

総回答数 40団体

項目	主な意見
建設に要する費用が安いこと	・建設に要する費用が安いのも重要だが、完成後の使い勝手やメンテナンスについても配慮してもらいたい。【運送会社】
工事中の交通規制による影響が小さいこと	・工事中も救急搬送や物流に対して配慮してほしい。【自治体等】 ・道路建設のために現道で交通規制が生じることは、物流を含む交通への影響が大きいので、特に配慮してほしい。【農水産加工会社】
自然環境への影響が小さいこと	・漁業は海の世界だけでなく海へ繋がる山や湿原の状況を見ている。自然環境には是非配慮してもらいたい。【自治体等】 ・自然豊かな地域でありそれを目的に観光にも来てくれるので配慮すべき。【農水産加工会社】
家屋や施設等への影響が小さく沿道地域からアクセスしやすいこと	・全ての沿道地域からアクセスしやすい道路とはならないが、ある程度の配慮は必要。災害時の避難路の視点からも沿道地域からのアクセスは重要。【トラック協会】

2-13) 地域意見聴取の結果 ヒアリング調査(その他配慮すべき項目や意見)

○その他配慮すべき項目や意見として、今後の事業計画や整備後の利活用について、産業、観光、医療、防災等の観点で様々な意見が寄せられた。また、関係団体(女性部)からのヒアリングでは、暮らし等の観点で意見が寄せられた。

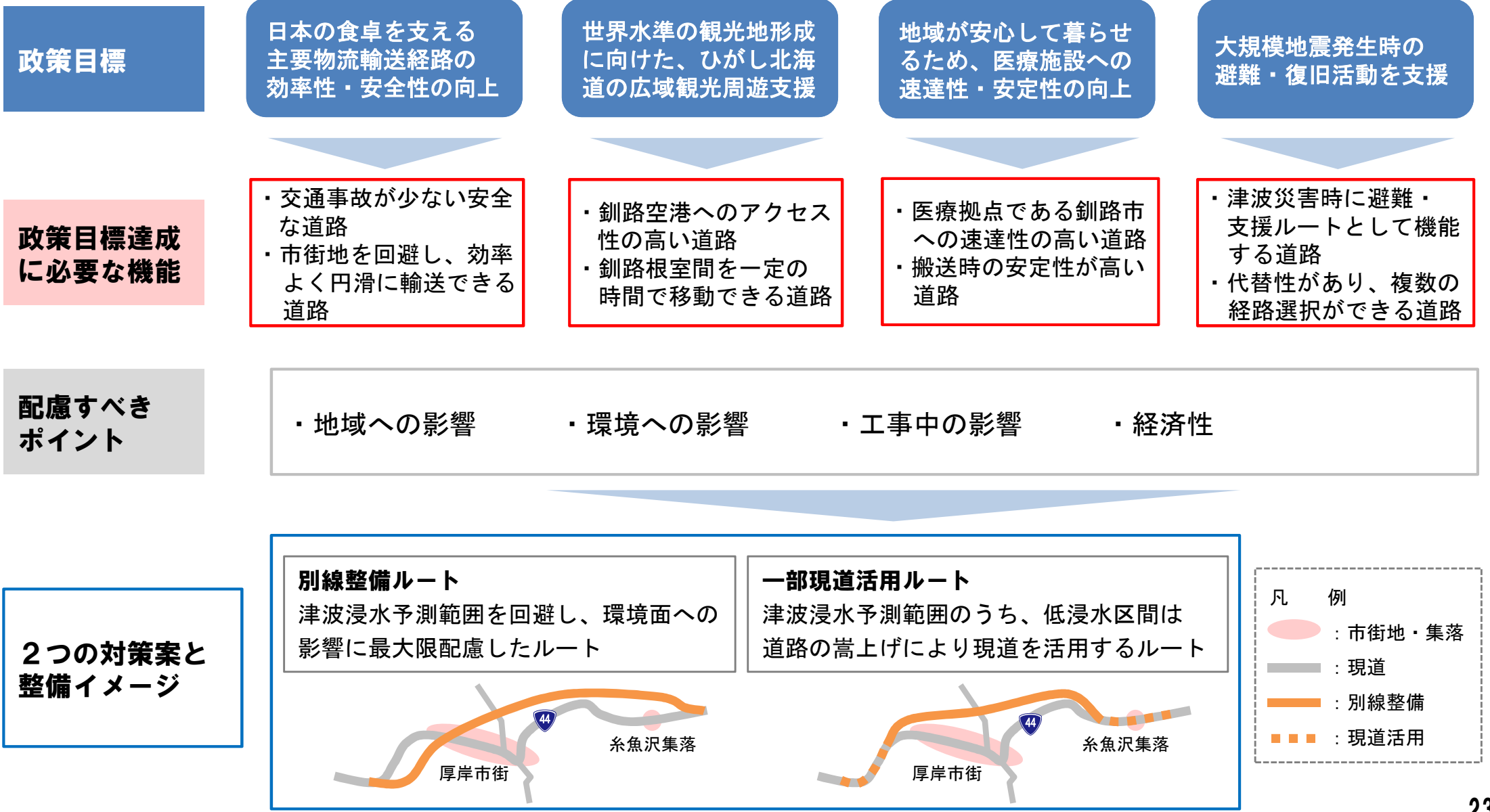
その他、配慮すべき項目や、今後の道路整備についてのご意見等がありましたらご自由にお書きください。

主な意見
・厚岸蒸留所は2020年に厚岸というウイスキーを出荷予定。トラック便で国内外に空輸・陸送を計画している。<u>ワレモノであり安定した道路での輸送には大いに役立つと考えられる。【自治体等】</u> ・地震時の避難が長時間続く場合には道道14号(厚岸標茶線)に隣接している太田地区に建設した厚岸町活性化施設を指定避難所(炊き出し可・収容人数224人)として指定している。また厚岸町活性化施設の隣には太田小学校、中学校もあり、こちらも指定避難所であり車中泊での避難にも対応できる様になっている。市街地にも太田地区にもルート帯が近いので道道厚岸標茶線との交点にインターチェンジができれば避難物資や救援の行き来ができ復旧活動に不安がなくなると考えている。【自治体等】 ・北方領土との共同経済活動を進める上で人と物が最初に到着するのは根室港である。その人と物を根室港から道東・道央へいかに早く移動させるには道路ネットワークが重要になってくると考えている。特に花咲線には貨物がいないため、物流はトラック輸送が重要。【自治体等、商工会議所・商工会】 ・広域周遊観光にとって移動時間がかかるというのはネックとなる。高速道路が繋がればもっと周遊して貰えると考えている。【観光団体】 ・季節を問わず毎週、出張医を空港に迎えにいくので、救急医療を続けるためにも医師の負担軽減が図れる空港へのアクセスが非常に重要。【病院】 ・胆振東部地震での停電時は、信号が消灯しており、交差点部での安全確認に時間を要し到着が遅れた。<u>根室～釧路間の走行時間短縮が出来ればより多くの緊急対応が可能となるので根室までの早期の整備をお願いしたい。【消防本部】</u> ・子供の習い事や部活の試合、買い物、高齢者の通院時の付き添い等で釧路には頻繁に行く。<u>移動時間が負担となるので時間短縮は重要。</u> 【JA 女性部】 ・安心して出産するために検査の段階から釧路の病院へ車を運転して行く。出産後も1ヶ月検診等の検査に赤ちゃんを乗せて2時間かけて根室から釧路まで運転して行くので急ブレーキをかけることのない安心して走れる道路が望ましい。【漁業協同組合 女性部】

3. 対応方針（原案）の検討

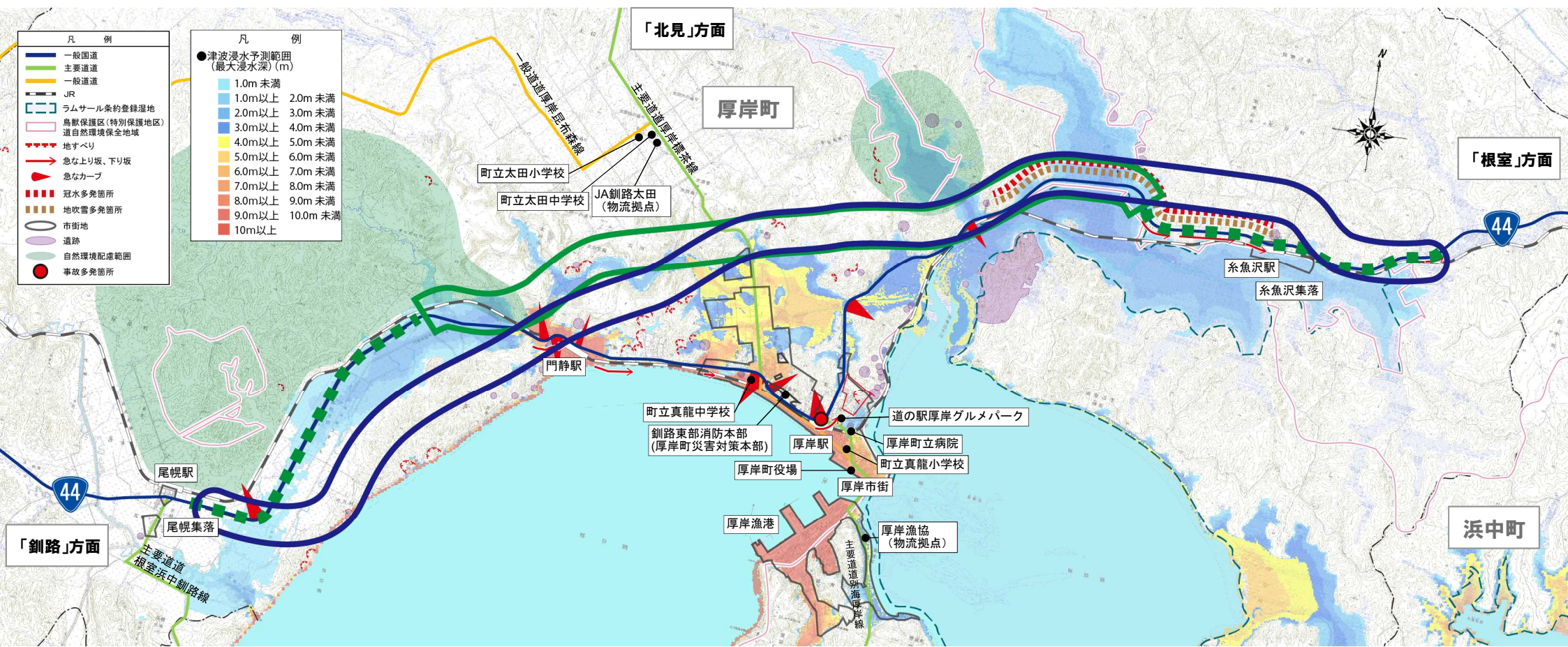
3-1) 路線の対策案の考え方

○第1回地域意見聴取で地域の課題、尾幌～糸魚沢間に必要な道路機能について確認したことから、政策目標の達成に必要な機能と配慮すべき事項等を踏まえ、以下のような2つの対策案を設定。



3-2) 対策案の概要

○コントロールポイントを踏まえ、政策目標達成に必要な機能から2つの対策案を設定。



案① 別線整備ルート

津波浸水予測範囲を回避し、
環境面への影響に最大限配慮したルート

- ・市街地や津波浸水予測範囲を回避し、代替性、耐災害性に優れる
- ・案②に比べ自動車専用道路区間の延長が長くなり、走行性に優れサービス速度は確保しやすい
- ・別線整備のためアクセスコントロールされ、案②に比べ安全性は向上するが、糸魚沢集落からの利便性が低下する
- ・案②に比べ経済性に優れる。

案② 一部現道活用ルート

現道を部分的に活用し、
局所的な改良を行うルート

- ・津波浸水予測範囲は現道の嵩上げにより解消するが、別線整備が一部区間に留まるため案①に比べ代替性が劣る。
- ・現道活用部分に一部急な上り下り坂が残り、所要時間はあまり短縮できない
- ・糸魚沢集落付近は現道活用区間内であり、道路へのアクセス性は損なわれない
- ・低浸水区間は津波対策で道路を嵩上げる盛土を行うためコストが増加する

3-3) 対策案の比較評価

対策案の考え方			【案①】別線整備ルート		【案②】一部現道活用ルート	
			津波浸水予測範囲を回避し、環境面への影響に最大限配慮したルート		津波浸水予測範囲のうち、低浸水区間は道路の嵩上げにより現道を活用するルート	
整備イメージ						
区間延長			約 2.5 km (自動車専用道路)		約 2.4 km (自動車専用道路+現道改良)	
政策目標	日本の食卓を支える主要輸送経路の効率性・安全性の向上	線形不良区間の解消	・ 急な上り坂、下り坂を回避できる。	◎	・ 現道活用区間に一部急な上り坂、下り坂が残る。	△
		走行安全性の向上	・ 貨物輸送と厚岸市街・糸魚沢集落の生活交通の輻輳が解消され安全性が確保される	◎	・ 糸魚沢集落では、貨物輸送と生活交通の輻輳が残るため、安全性に不安が残る	△
	世界水準の観光地形成に向けた、ひがし北海道の広域観光周遊支援	釧路空港へのアクセス性向上	・ 夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が大きい	◎	・ 一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が小さい	△
		定時性の向上	・ 冠水・地吹雪による通行止め多発区間の回避が可能	◎	・ 糸魚沢集落付近で一部通行止め多発区間を回避できないが、現道対策で低減効果が期待	○
	地域が安心して暮らせるため、医療施設への速達性・安定性の向上	第3次医療機関への移動時間短縮(夏季・冬季)	・ 夏季、冬季ともに年間を通じて時間短縮効果が大きい	◎	・ 一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに時間短縮効果が小さい	△
		搬送時の安定性向上	・ 信号箇所(7箇所)や急なカーブ(9箇所)を全て回避し、搬送患者の負担を軽減できる。	◎	・ 別線区間は信号箇所(6箇所)や急なカーブ(8箇所)を回避できるが、現道改良区間で信号箇所(1箇所)や急なカーブ(1箇所)が一部残り、搬送患者の負担軽減に支障がある。	○
	大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援	脆弱性の解消	・ 津波浸水区間を別線整備により解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎	・ 津波浸水予想範囲にある低浸水区間の現道の嵩上げにより解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎
		代替路の確保	・ 別線整備により全線代替路を確保できる	◎	・ 一部区間の別線整備と、既存の道道ネットワークを活用することで代替路を確保できるが迂回距離は増える	○
配慮すべき事項	地域への影響	家屋等土地利用への影響	・ 家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎	・ 家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎
		沿道地域からの利便性	・ アクセスコントロールされるため糸魚沢集落からの利便性が案②に比べやや劣る	○	・ 一部現道を活用するため糸魚沢集落からの利便性が高い	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・ 延長が長いが、樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を回避しており、自然環境への影響は小さい	◎	・ 樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を一部通過するが、樹林等の改変面積が小さいため、自然環境への影響が比較的小さい	○
	工事中的影響	工事中的現道交通への影響	・ 別線ルートとなるため、工事中的現道交通への影響は案②に比べ小さい	◎	・ 現道改良区間は現道交通への影響が大きく、工事中的通行規制が必要	△
	経済性	整備区間や構造等に係る費用	・ 案②と比べ経済性に優れる	◎	・ 津波浸水域を通過するため、対策費用が嵩み、案①に比べ経済性に劣る	△
			約 620～700 億円		約 790～880 億円	

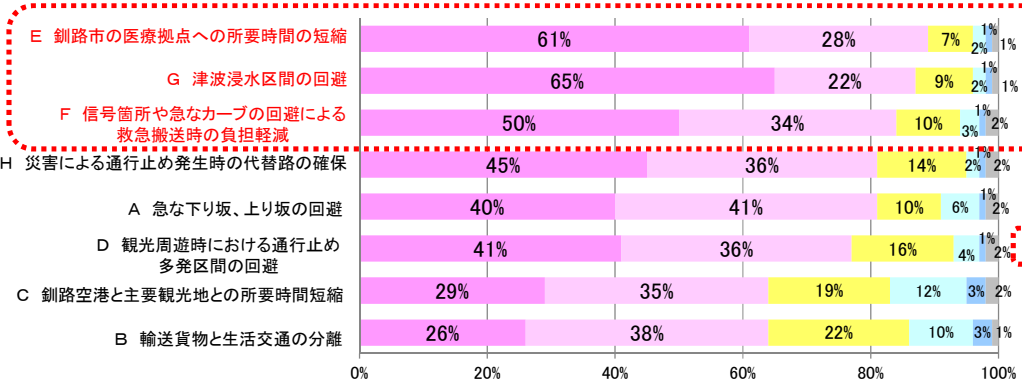
※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。
政策目標：【凡例】◎：達成できる ○：概ね達成できる △：部分的に達成できる ×：達成できない
配慮すべき事項：【凡例】◎：影響小さい ○：影響比較的小さい △：他案に比べ劣る ー：現在と変わらない

3-4) 対応案の比較評価 (対策案選定時に重視すべき項目)

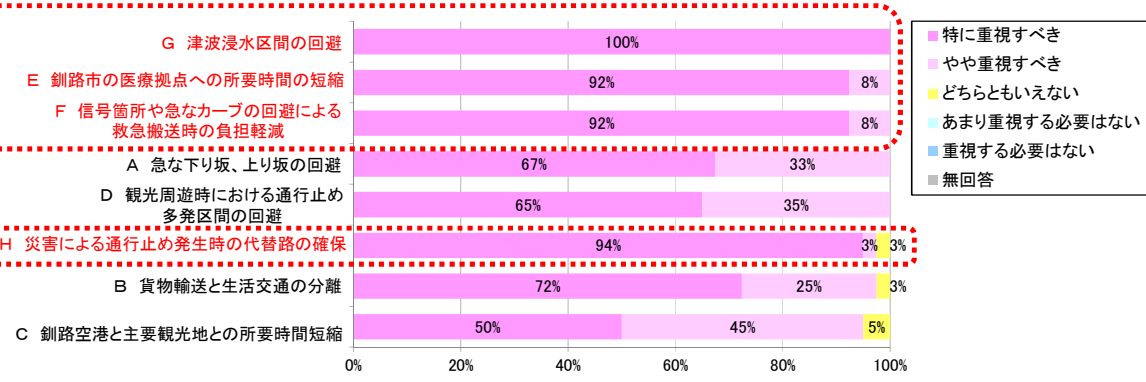
○道路機能の重視度については、すべての項目に対しアンケート結果では6割以上、ヒアリング結果では9割以上が重視すべきと回答。

○アンケート及びヒアリング結果では「釧路市の医療拠点への所要時間の短縮」、「津波浸水区間の回避」、「信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減」が双方で重視され、ヒアリング結果では9割以上が「災害による通行止め発生時の代替路の確保」を特に重視すべきと回答。

【アンケート】



【ヒアリング】



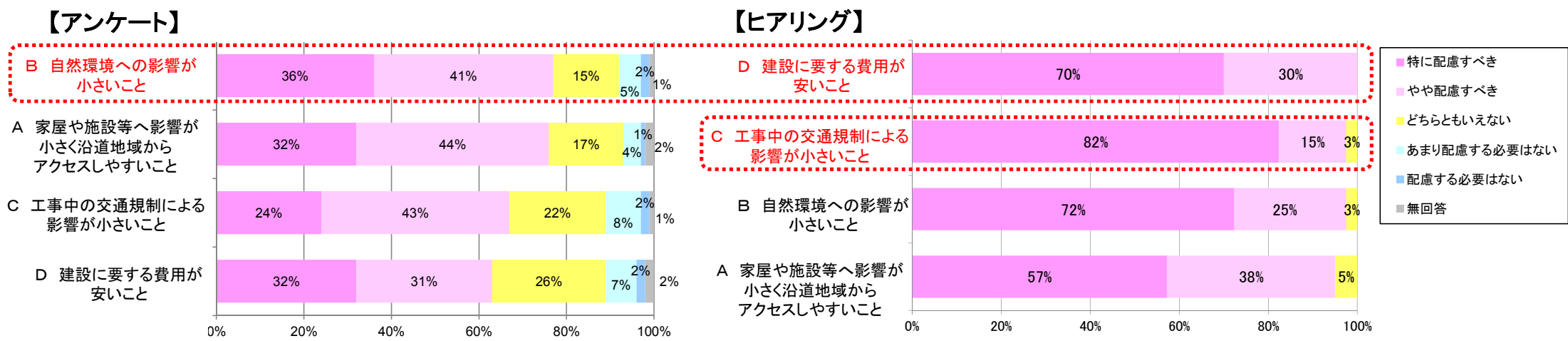
対策案の考え方			【案①】別線整備ルート		【案②】一部現道活用ルート	
政策目標	日本の食卓を支える主要輸送経路の効率性・安全性の向上	線形不良区間の解消	・急な上り坂、下り坂を回避できる。	◎	・現道活用区間に一部急な上り坂、下り坂が残る。	△
		走行安全性の向上	・貨物輸送と厚岸市街・糸魚沢集落の生活交通の輻輳が解消され安全性が確保される	◎	・糸魚沢集落では、貨物輸送と生活交通の輻輳が残るため、安全性に不安が残る	△
	世界水準の観光地形成に向けた、ひがし北海道の広域観光周遊支援	釧路空港へのアクセス性向上	・夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が大きい	◎	・一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が小さい	△
		定時性の向上	・冠水・地吹雪による通行止め多発区間の回避が可能	◎	・糸魚沢集落付近で一部通行止め多発区間を回避できないが、現道対策で低減効果が期待	○
	地域が安心して暮らせるため、医療施設への速達性・安定性の向上	第3次医療機関への移動時間短縮（夏季・冬季）	・夏季、冬季ともに年間を通じて時間短縮効果が大きい	◎	・一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに時間短縮効果が小さい	△
		搬送時の安定性向上	・信号箇所（7箇所）や急なカーブ（9箇所）を全て回避し、搬送患者の負担を軽減できる。	◎	・別線区間は信号箇所（6箇所）や急なカーブ（8箇所）を回避できるが、現道改良区間で信号箇所（1箇所）や急なカーブ（1箇所）が一部残り、搬送患者の負担軽減に支障がある。	○
	大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援	脆弱性の解消	・津波浸水区間を別線整備により解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎	・津波浸水予想範囲にある低浸水区間の現道の嵩上げにより解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎
		代替路の確保	・別線整備により全線代替路を確保できる	◎	・一部区間の別線整備と、既存の道道ネットワークを活用することで代替路を確保できるが迂回距離は増える	○

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎：達成できる ○：概ね達成できる △：部分的に達成できる
※比較表の着色部はアンケート及びヒアリングの双方または片方で重視されている上位の項目であり、 は評価が◎、 は評価が○、 は評価が△のもの。

3-5) 対策案の比較評価 (対策案選定時に配慮すべき事項)

○配慮すべき事項の重視度については、すべての項目に対しアンケート結果では6割以上、ヒアリング結果では9割以上が配慮すべきと回答。

○アンケート結果では「自然環境への影響が小さいこと」、関係団体ヒアリング結果では「建設に要する費用が安いこと」が最も重視されており、ヒアリング結果では8割以上が「工事中の交通規制による影響が小さいこと」を特に重視すべきと回答。



対策案の考え方			【案①】別線整備ルート		【案②】一部現道活用ルート	
配慮すべき事項	地域への影響	家屋等土地利用への影響	・家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎	・家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎
		沿道地域からの利便性	・アクセスコントロールされるため糸魚沢集落からの利便性が案②に比べやや劣る	○	・一部現道を活用するため糸魚沢集落からの利便性が高い	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・延長が長いが、樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を回避しており、自然環境への影響は小さい	◎	・樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を一部通過するが、樹林等の改変面積が小さいため、自然環境への影響が比較的小さい	○
	工事中的の影響	工事中の現道交通への影響	・別線ルートとなるため、工事中の現道交通への影響は案②に比べ小さい	◎	・現道改良区間は現道交通への影響が大きく、工事中の通行規制が必要	△
	経済性	整備区間や構造等に係る費用	・案②と比べ経済性に優れる	◎	・津波浸水域を通過するため、対策費用が高み、案①に比べ経済性に劣る	△
約620～700億円			約790～880億円			

※比較表の評価は、現時点で想定される概ねのルートの評価を一般的な目安として記載。【凡例】◎：達成できる ○：概ね達成できる △：部分的に達成できる
※比較表の着色部はアンケート及びヒアリングの双方または片方で重視されている上位の項目であり、 は評価が◎、 は評価が○、 は評価が△のもの。

3-6) 対応方針(原案)の検討

対策案の考え方			【案①】別線整備ルート	【案②】一部現道活用ルート		
			津波浸水予測範囲を回避し、環境面への影響に最大限配慮したルート	津波浸水予測範囲のうち、低浸水区間は道路の嵩上げにより現道を活用するルート		
整備イメージ						
区間延長			約 2.5 km (自動車専用道路)		約 2.4 km (自動車専用道路＋現道改良)	
政策目標	日本の食卓を支える主要輸送経路の効率性・安全性の向上	線形不良区間の解消	・急な上り坂、下り坂を回避できる。	◎	・現道活用区間に一部急な上り坂、下り坂が残る。	△
		走行安全性の向上	・貨物輸送と厚岸市街・糸魚沢集落の生活交通の輻輳が解消され安全性が確保される	◎	・糸魚沢集落では、貨物輸送と生活交通の輻輳が残るため、安全性に不安が残る	△
	世界水準の観光地形成に向けた、ひがし北海道の広域観光周遊支援	釧路空港へのアクセス性向上	・夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が大きい	◎	・一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに年間を通じて釧路空港―根室市間の時間短縮効果が小さい	△
		定時性の向上	・冠水・地吹雪による通行止め多発区間の回避が可能	◎	・糸魚沢集落付近で一部通行止め多発区間を回避できないが、現道対策で低減効果が期待	○
	地域が安心して暮らせるため、医療施設への速達性・安定性の向上	第3次医療機関への移動時間短縮(夏季・冬季)	・夏季、冬季ともに年間を通じて時間短縮効果が大きい	◎	・一部現道を活用するため、夏季、冬季ともに時間短縮効果が小さい	△
		搬送時の安定性向上	・信号箇所(7箇所)や急なカーブ(9箇所)を全て回避し、搬送患者の負担を軽減できる。	◎	・別線区間は信号箇所(6箇所)や急なカーブ(8箇所)を回避できるが、現道改良区間で信号箇所(1箇所)や急なカーブ(1箇所)が一部残り、搬送患者の負担軽減に支障がある。	○
	大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援	脆弱性の解消	・津波浸水区間を別線整備により解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎	・津波浸水予想範囲にある低浸水区間の現道の嵩上げにより解消し、地震・津波発生時の避難・輸送ルートを確保できる	◎
代替路の確保		・別線整備により全線代替路を確保できる	◎	・一部区間の別線整備と、既存の道道ネットワークを活用することで代替路を確保できるが迂回距離は増える	○	
配慮すべき事項	地域への影響	家屋等土地利用への影響	・家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎	・家屋等の支障が少なく、農用地への影響は小さい	◎
		沿道地域からの利便性	・アクセスコントロールされるため糸魚沢集落からの利便性が案②に比べやや劣る	○	・一部現道を活用するため糸魚沢集落からの利便性が高い	◎
	環境への影響	自然環境への影響	・延長が長い、樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を回避しており、自然環境への影響は小さい	◎	・樹林地や貴重な湿地など自然環境への配慮が必要な範囲を一部通過するが、樹林等の改変面積が小さいため、自然環境への影響が比較的小さい	○
	工事中の影響	工事中の現道交通への影響	・別線ルートとなるため、工事中の現道交通への影響は案②に比べ小さい	◎	・現道改良区間は現道交通への影響が大きく、工事中の通行規制が必要	△
	経済性	整備区間や構造等に係る費用	・案②と比べ経済性に優れる	◎	・津波浸水域を通過するため、対策費用が嵩み、案①に比べ経済性に劣る	△
約 620～700 億円			約 790～880 億円			

対応方針(原案)

比較評価の結果、対応方針(原案)については、全ての政策目標の達成が概ね見込め、かつ、地域が望む重視・配慮すべき項目に適切に対応可能な【案①】別線整備ルートを対応方針(原案)とする。

4. 自治体への意見照会結果

4-1) 自治体への意見照会結果〔対応方針(原案)に対する意見〕

▼意見照会の回答（要旨）

自治体名	意見
北海道	○北海道横断自動車道根室線(尾幌～糸魚沢)の対応方針(原案)について同意します。 ○尾幌～糸魚沢間の整備は、大規模地震・津波発生時の避難・復旧活動への貢献、地元農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、安全で確実な交通の確保、釧路市の高次医療施設への救急搬送時間の短縮など多くの効果を発揮するものと考えています。 ○当該区間の早期事業化が図られるとともに、対応方針の決定に際しては、地域の意見を十分に反映していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。

▼自治体意見照会の回答（北海道知事）

建 政 第 7 2 6 号
平成31年 1月23日

北海道開発局長 水島 徹治 様

北海道知事 高橋 はるみ

道路事業の計画段階評価に係る意見照会について（回答）
日頃から北海道の建設行政の推進につきましては、格別の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、平成31年1月18日付け北開局道計第80号で照会のありましたこのことについて、次のとおり回答いたします。

記

北海道横断自動車道根室線（尾幌～糸魚沢間）の対応方針（原案）について同意します。

本道における高規格幹線道路ネットワークは、圏域間の交流拡大や広域観光の振興、地域経済の活性化への貢献のほか、大規模災害における代替路の確保など、道民生活や経済の面で重要な役割を果たすものです。
中でも、尾幌～糸魚沢間の整備は、大規模地震・津波発生時の避難・復旧活動への貢献、地元農水産物の輸送をはじめとする物流の効率化、安全で確実な交通の確保、釧路市の高次医療施設への救急搬送時間の短縮など多くの効果を発揮するものと考えています。
つきましては、当該区間の早期事業化が図られるとともに、対応方針の決定に際しては、地域の意見を十分に反映していただくよう特段のご配慮をお願いいたします。

連絡先
建設部建設政策局建設政策課
政策調整グループ 主査（公共評価）
TEL 011-231-4111 内線29-124
FAX 011-232-9162

5. 対応方針（案）のまとめ

5-1) 対応方針(案)

1. 道路整備の必要性

【課題】

- 当該地域は、日本有数の食糧供給基地であるが、大消費地や道外出荷拠点まで長距離輸送を要し、輸送の安全性の向上、効率化が課題。
- 当該地域は広範囲に観光資源が点在するため移動時間が長く、観光周遊の拠点となる釧路空港へのアクセス向上、管内の移動における定時性の向上が課題。
- 当該地域は高度医療を釧路市に依存しているが、三次医療施設のカバー面積が全国一と広いため、釧路市への速達性が課題。
- 当該地域は今後30年以内に震度6弱以上の揺れの発生確率が道内で1位(根室振興局)と3位(釧路総合振興局)と高く、厚岸市街を中心に津波浸水予測範囲が広がっているため、災害時の避難路・支援路の確保が課題。

【政策目標】

- ◇日本の食卓を支える主要物流輸送経路の効率性・安全性の向上
- ◇世界水準の観光地形成に向けた、ひがし北海道の広域観光周遊支援
- ◇地域が安心して暮らせるため、医療施設への速達性・安定性の向上
- ◇大規模地震発生時の避難・復旧活動を支援

2. 対応方針(案)

【案①】別線整備ルート を対応方針(案)とする。

【理由】

- 【案①】別線整備ルートは、【案②】一部現道活用ルートに比べ、すべての政策目標面において、同等以上の達成が見込め、優れている。
- 地域意見聴取結果、政策目標の達成のためには、「釧路市の医療拠点への所要時間の短縮」、「津波浸水区間の回避」、「信号箇所や急なカーブの回避による救急搬送時の負担軽減」がアンケート及びヒアリング双方で重視されている。ヒアリング結果では9割以上が「災害による通行止め発生時の代替路の確保」を特に重視している。
- 事業にあたって配慮すべき事項として、アンケートでは「自然環境への影響が小さいこと」、ヒアリングでは「建設に要する費用が安いこと」「工事中の交通規制による影響が小さいこと」が重視されている。【案①】は地域が望む重視・配慮すべき項目に適切に対応可能である。
- インターチェンジの詳細な位置や構造については、地域意見聴取の結果を踏まえ、災害時の避難・救援活動の円滑性、市街地や主要な幹線道路、物流拠点との連絡性、観光交流の促進等に寄与する配置とする。

3. その他

- 今後の詳細な道路構造等の検討にあたっては、地域への影響、自然環境への影響、工事中の現道交通への影響、経済性等に配慮しながら計画を進める。

5-2) 対応方針(案)

- 自然環境への影響に配慮し、全線で新たな自動車専用道路を整備。
- 津波浸水予測範囲を回避し、医療施設への速達性・安定性の向上が図られる【案①】別線整備ルートで整備。

